

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No257

(新著の紹介)

『探究学習』とはいうけれどー民主主義社会の主体形成の観点から
柏木智子先生(立命館大学産業社会学部 教授)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)

立命館大学産業社会学部教授

大阪大学大学院人間科学研究科博士課程修了。博士（人間科学）立命館大学産業社会学部准教授等を経て、2020年より現職。

研究テーマ：社会の分断を防ぐ、ケアする学校と地域づくり

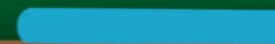
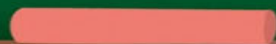


柏木智子
かしわぎ ともこ



柏木智子・姫路市立豊富小中学校（著）
『子どもの思考を深めるICT活用』晃洋書房
（2023年）

「多様な子どもたちをつなぐツール」としてのICTを活用し、子どもの相互作用・共同活動による思考を深めるための実践事例を多数紹介。



新著



『探究学習』とはいうけれどー学びの「今」に向き合う

探究学習研究会 清水優菜・村松灯・田中智輝・荒井英治郎・大
林正史・松村智史・古田雄一・武井哲郎・柏木智子

第Ⅰ部 探究学習の「もやもや」を探る

- 第1章 探究学習を支える新しい学力観とそのジレンマ
- 第2章 探究学習をめぐる政策動向と探究の過程
- 第3章 探究学習は資質・能力の向上に寄与するのか
- 第4章 探究学習に対する不安・困難さの実態

第Ⅱ部 探究学習の「？」から考える

- 第1章 課題の設定はどのようにすればよいのか？
ー「問い」が生まれる条件を探るー
- 第2章 調べ学習を超えてどのように探究学習をデザインするか？
- 第3章 探究学習のプロセスをどう指導すればよいのか？
- 第4章 探究学習をどう評価すべきか
- 第5章 生徒に「伴走」するってどういうこと？
- 第6章 教員観の意識のズレ（温度差）をどう解消したらよいのか？
- 第7章 生徒のやる気を高めるためには？
ー探究学習による格差の拡大は防げるのかー

それではご覧ください

『探究学習』とはいうけれど

—学びの「今」に向き合う—

探究学習研究会

清水優菜・村松灯・田中智輝・
荒井英治郎・大林正史・松村智史・
古田雄一・武井哲郎・柏木智子



自己紹介 (Tomoko Kashiwagi)

【テーマ】

社会の分断を防ぎ、公正な民主主義社会を形成する学校・地域の提案

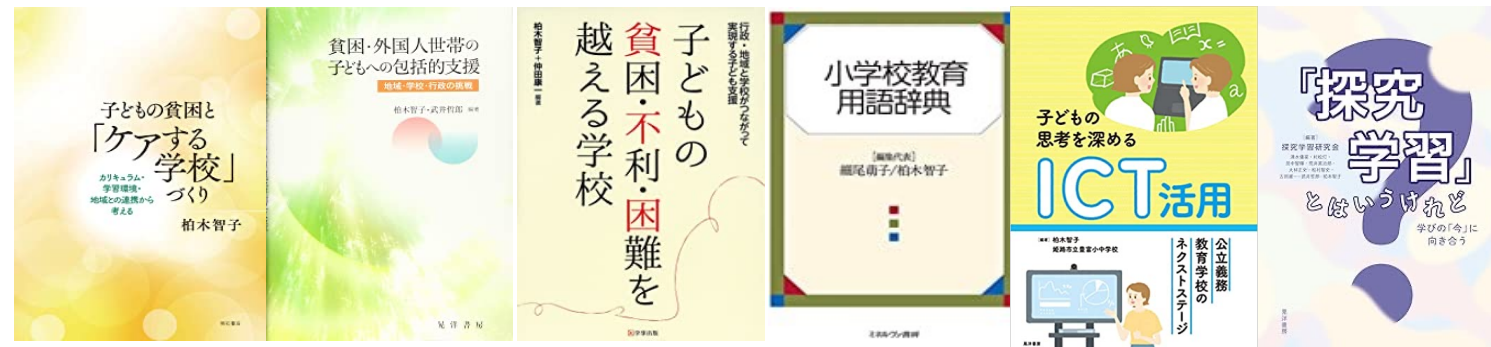
keywords : 貧困・外国ルーツ・困難を抱える子ども/ケア/学校・地域づくり/包摂/ウェルビーイング

【調査研究】

- ・ 子ども食堂・学習支援
- ・ ケアする学校・授業づくり
- ・ ICTと教育

連絡先 :

Mail:k-tomoko@fc.ritsumeai.ac.jp



本書の目的

探究学習を多角的に探究しながら、

先生方と「もやもや」を共有し、

一緒に悩むこと

本書の前提

探究学習とは、
生徒が民主主義社会を形成する主体となるための学習活動である。

そもそも民主主義社会とは何なのか。

それはどう形成されるものなのか。

そのための学びはどういったものなのか。

そこでの学校の意義や教師の役割は何なのか。

悩みの
根源

本書の特徴

1. 悩みの本質に迫る

→ 「どんでん返し」の
問い直し・問い返し

2. 豊富なデータ分析・事例研究

3. 学際的なアプローチ

→ 哲学・社会学・心理学・
経営学・行政学等

目次

- 第 I 部 探究学習の「もやもや」を探る
 - 第1章 探究学習を支える新しい学力観とそのジレンマ
 - 第2章 探究学習をめぐる政策動向と探究の過程
 - 第3章 探究学習は資質・能力の向上に寄与するのか
 - 第4章 探究学習に対する不安・困難さの実態
—生徒・教員対象の意識調査から—
-

第1章

探究学習を支える新しい学力観とそのジレンマ

- ・ 探究学習が求められた日本と世界の社会的動向や変遷
—新しい学力観—

? 新しい学力観も社会から規定されているよね?

? 個人に内属する資質・能力観だよね?

? 真正な学びって学校でできるの?

? ? ? 探究学習って学校でできるの? ? ?

第2章

探究学習をめぐる政策動向と探究の過程

- 探究学習の解説と本書の流れの提示
- 学習指導要領の読み解き

第3章 探究学習は資質・能力の向上に寄与するのか

- 探究学習の効果の提示
- なぜ？「生産的失敗」だよ

第4章 探究学習に対する不安・困難さの実態 —生徒・教員対象の意識調査から—

アンケート調査から生徒・教員の不安と困難の具体的内容を解明

例：全体的な傾向として生徒の「課題の設定」に関する不安が高い。

けれども、すべての探究の過程について、不安の程度が低い群も！

例：教員は「課題の設定」の指導に最も不安を感じている。

ただ、他の項目も全体的に不安を感じているよ。

目次

第Ⅱ部 探究学習の「？」から考える

第1章 課題の設定はどのようにすればよいのか？

－「問い」が生まれる条件を探る－

第2章 調べ学習を超えてどのように探究学習をデザインするか？

－現実の社会への参画を組み込んだ探究学習

第3章 探究学習のプロセスをどう指導すればよいのか？

第4章 探究学習をどう評価すべきか

第5章 生徒に「伴走」するってどういうこと？

－地域ともつながる探究学習に向けて－

第6章 教員観の意識のズレ（温度差）をどう解消したらよいのか？

－探究学習を支える教員組織－

第7章 生徒のやる気を高めるためには？－探究学習による格差の拡大は防げるのか－

第1章 課題の設定はどのようにすればよいのか？ — 「問い」 が生まれる条件を探る —

- 問題とは解かれるものではなく、創造されるべきもの
- 問い合う関係が大事

第2章 調べ学習を超えてどのように探究学習をデザインするか？

ー現実の社会への参画を組み込んだ探究学習

「ずれ」こそが学びを深いものにする契機

- ・ 学習者が前もって抱いていた期待と学習活動の整合→深く考えずに処理
- ・ 学習者の期待やイメージ、価値に整合しない学習活動
 - 驚きや困惑
 - 反省的な思考や判断、知識の更新や洗練

第3章

探究学習のプロセスをどう指導すればよいのか？

A中学校の実践

- ・ 探究課題の切実性
- ・ 地域課題解決に取り組む住民や専門家の生徒たちへの応答
- ・ 住民たちから本物の地域課題の解決を期待される生徒たち
- ・ 生徒たちが課題解決のPDCAサイクルの過程を決定

第4章 探究学習をどう評価すべきか

- ・ わかりやすい評価の概説
- ・ 評価の目的や重要度などに応じて評価項目は異なる。
- ・ 評価の妥当性の証拠の探究は永続的な作業となる。



「妥当性のある探究学習の評価はなく、さまざまな側面の証拠をもって、探究学習の妥当性を永続的に探究すること」

第5章 生徒に「伴走」するってどういうこと？ —地域ともつながる探究学習に向けて—

- 生徒の探究学習に伴走するのは教員にとって葛藤の連続
- 地域とつながる探究学習が生徒の興味・関心を深掘りする契機
- 学校としての取り組みや個々の生徒の考えを翻訳しながら伴走
- 生徒同士の伴走も？

第6章 教員観の意識のズレ（温度差）をどう解消したらよいか？—探究学習を支える教員組織—

- 「指導ロジック」 → 「伴走ロジック」
- 「正統性ロジック」
- 「協働ロジック」
- 「社会ロジック」

第7章 生徒のやる気を高めるためには？ —探究学習による格差の拡大は防げるのか—

- 探究の意義の生徒との共有
- 教師と生徒のあたたかな関係性
- 企業や大学、行政との連携
- 教師自身の動機づけ
- 教員が絶えず行う動機づけが失敗することによって動機づけられる。
 - 教職は失敗を願いながらやる気を高めるよう工夫し続けるしかない職業か。